

資料② 弥兵衛物語音楽の全体像

〔ナレーション〕 八雲の村に意宇川という美しい大きな川がありました。困ったことに、昔、この川は大雨が降るとすぐにあふれてしまい、家や田んぼ、畑、たくさんの人の命までものみこんでしまうのでした。

♪雨の音 大豆とお盆を使った音づくり (全員)
(ザーザー) (パラパラ)

♪洪水の音(グループ)

家のきしむ音	ギロ トライアングル
水の流れ	ティンパニー
家の流される音	木琴 マラカス
家のこわれる音	大太鼓 ピアノ
家のぶつかる音	ビブラフォン
木の折れる音	コンガ シンバル
家のぶつかる音	

(洪水の歌) (全員で合唱)

(第1節) アーアーアーくる日もくる日もしのつく雨に 川は土手をこえあふれて流れ たんぼや畑をひとのみにして意宇川のあばれもの

(第2節) アーアーアーおきな弥兵衛の思いは一つ 川を広げて岩山くたく 星空仰いでつちふりかざす 剣の山にこだまする

〔セリフ〕「ああ、とても見てはおれん、目の前で流れていく者がいるのにわしはなにもしない」「助けたい何とかして」

「村をすくいたい」「人々のために」

〔ナレーション〕 村の村長であった弥兵衛はいつもそう思うのでした。

〔セリフ〕「そうだ、剣山の山切りをしよう」

〔ナレーション〕 と決心しました。弥兵衛が56才の夏のことでした。

♪一人さみしくツルハシで砕く音

(手作り楽器で気持ちを込めて岩を砕く音)

(山にこだまする音) (グループ)

♪春 (のどかな春の音)

♪夏 (かえるの鳴き声)

(セミの声)

♪秋 (村まつりのたいこの音)

(笛の音)

♪冬 (冷たく凍てつくような音)

♪春の音 (初めの部分だけ)

〔ナレーション〕 そしてまた春がきました。

ビブラフォン
トライアングル
ギロ マラカス
木琴
ボックスフォン

〔セリフ〕「ああ、とうてい一人ではできない」

「だめだ、気持ちばかりあせて一つも進まぬ」

〔ナレーション〕 弥兵衛の姿は、日に日におとろえ変わり果てていきます。そんな弥兵衛の姿を見て、やっと村人が真剣に手をかすようになりました。

〔セリフ〕

「やめてください、弥兵衛さま」

「やめてください、弥兵衛さま」

「弥兵衛さま一人ではさせないぞ」

「そうだわしらも手伝おう」「今すぐ行こう」

「でも、たたりがー」「たたりがー(群読で)」(群読の人数をだんだん増やしていく)

「人々のためにやるんだ龍神様もきつと味方になって下さるに違いない」

「今すぐ行こう」「行こう(群読で)」(群読の人数をだんだん増やしていく)

(山切り歌) (全員で合唱)

たった一人でつるはしを弥兵衛は無心に岩くたくやせおとろえてたおれそうだ

村人進んで手をのべた弥兵衛を一人にはさせないぞ エイエイオー エイエイオー

〔ナレーション〕 そして42年目

〔セリフ〕「あともう少しで貫通するぞ」

「おーい、水をながすぞー」「あっ、水だ」

「水だ、水だ」

♪鈴の音 (群読の要領で少しずつ増やす)

〔ナレーション〕 とうとう川はまっすぐに流れたのです。夢にまで見たこの日

(歌 しあわせな村) (全員で合唱)

きこえる きこえる せせらぎの音

差し出す両手に光る水

そっとのみほし そっとのみほし

喜びにあふれるなみだ

あんなにむごい あんなに悲しい

あんなにひどいことは二度とない

ああ八雲

しあわせな村よ

洪水・弥兵衛のツチ音

ア—ア—

くる日もくる日もしのつく雨に

川は土手越え溢れて流れ

ア—ア—

田んぼやはたけを一のみにして

意宇の里の暴れ者

ア—ア—

翁弥兵衛の思ひは一つ

川を広げて岩山拓く

ア—ア—

星空仰いでツチ振りかざす

剣の山にこだまする

ア—ア—

弥兵衛と働く村人

(男たち)

たった一人でツルハシを

弥兵衛は休まず岩砕く

(女たち)

やめてくだされ

やめてくだされ

(男たち)

村人の声も聞かないで

弥兵衛は無心に岩砕く

(女たち)

やせおとろえて倒れそうだ

(男たち)

村人すすんで手をのべた

(全員)

弥兵衛一人ではさせないぞ

エイエイオーウ

エイエイオーウ

しあわせな村(フィナーレ)

(合唱)

聞こえる聞こえるせせらぎの音

差し出す両手にひかる水

そっと飲み干し

そっと飲み干し

喜びにあふれる涙

(独唱)

あんなに惨い

あんなに悲しい

あんなひどいことは二度とない

(合唱)

ああ八雲

しあわせな村よ